

## 第4期酒田市地域福祉計画策定に関する第3回懇話会 議事録

日 時：令和4年3月22日（火）午後1時30分～午後3時50分

場 所：酒田市地域福祉センター 2階 大会議室

出席者：阿部 直善委員、五十嵐 京委員、小野 英男委員、小関 久恵委員、  
小山 憲樹委員、佐藤 次雄委員、佐藤 春好委員、佐藤 やす子委員、  
須田 和子委員、西田 不二郎委員、堀 まり委員、村上 幸子委員

欠席者：齋藤 学委員

事務局：市出席者

健康福祉部長、福祉課長、子育て支援課長、子育て支援課長補佐、健康課長、  
介護保険課長、まちづくり推進課長、福祉課長補佐、福祉課地域福祉係長、  
福祉課地域福祉係主事

酒田市社会福祉協議会出席者

常務理事兼事務局長、事務局次長兼地域福祉課長、地域福祉課長補佐  
地域福祉主査兼係長、地域福祉係主任

---

1 開 会

2 あいさつ

3 協 議

(1) 第4期酒田市地域福祉計画について (福祉課)

(2) 第4期酒田市地域福祉活動計画について (社会福祉協議会)

(3) 第4期酒田市地域福祉計画に関する意見公募（パブリックコメント）の  
結果及び懇話会委員からの意見について (福祉課)

(4) 第4期酒田市地域福祉活動計画に関する懇話会委員の意見及び意見公募  
（パブリックコメント）の実施について (社会福祉協議会)

(5) 意見交換

(6) その他

4 その他

5 閉 会

### 3 協 議

- (1) 第4期酒田市地域福祉計画について (福祉課)
- (2) 第4期酒田市地域福祉活動計画について (社会福祉協議会)
- (3) 第4期酒田市地域福祉計画に関する意見公募 (パブリックコメント) の結果及び懇話会委員からの意見について (福祉課)
- (4) 第4期酒田市地域福祉活動計画に関する懇話会委員の意見及び意見公募 (パブリックコメント) の実施について (社会福祉協議会)

委員：資料3の2番で、高齢者一人暮らし・高齢者夫婦世帯数の伸び率が高い要因として、施設入所者の増加も要因であると分析している。民生委員は毎年実態調査を行っているが、有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅の入所者などについても調査しているのか。

委員：毎年11月を基準に、各民生委員が担当地区の世帯調査として把握するよう努めている。

委員：担当地域に住んでいる方が、例えば違う地域の有料老人ホームに入所した場合などは、誰が確認しているのか。

委員：入所してからは、民生委員は専門的な機関に繋いだということになるため、その後の経過をご家族からうかがったりすることはあるが、調査対象からは外れる。

委員：実態調査には有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅の入所者が入っていないとすると、この回答の内容は正確ではない。大きな話の流れとして、高齢者だけの世帯が実際に増加している実態にあるというような内容でなければならない。

資料3の7番について、社会福祉協議会ではすでに社会福祉法人に対して呼びかけを行っている。社会福祉法人の連絡協議会を作って、各コミ振にどんな要望があるか聞いた上で、現在は各社会福祉法人の特性を活かした出前講座などを行っており、今後も拡大していく。そういった現在の取り組みについても補強していただければと思う。

事務局（市）：2番の高齢者数については、住所登録にかかわらず実態で調査されており、居所があるところでカウントされるものと認識している。高齢者2人暮らしの方や、息子世帯と暮らしていてももとは1世帯だったものが、グループホームなどへの入所により、実態としての世帯が増えるというようなこともある。実態と住所登録については、今後の動向も含めて整理、分析していきたい。

7番については、委員のご指摘の通りであり、現在の取り組みについては追記したいので、内容について社会福祉協議会と調整させていただきたい。

委員：資料3の1番について、「新健康さかた21」についても、「さかた健康づくりビジョン（新健康さかた21計画）」と表記しました、とある。「プラン」というとすぐわかるが、「ビジョン」というと、遠くにある理想像や未来像、幻のような印象で、具体的に計画実現に向かっていこうというイメージがわからない。

事務局（市）：既に計画としてある名称で、そちらの方が馴染みやすいということで追記した。「ビジョン」という呼称については、すでにある名称をそのまま使わせてもらったものだが、例えば地域福祉計画でも、第3期はビジョンと呼称していたものを、今回外した経緯もある。

委員：「ビジョン」という呼称では市民に具体的な計画としてとらえてもらえないと思った。

事務局（市）：今回はそれぞれの計画のタイトルをそのまま記載しているもので、計画の見直しの際にはご意見を踏まえて改めて検討していきたい。

委員：この3年、コロナ禍により予定された事業、会議等はほとんど出来なかったが、今回の計画に感染症についての記載が無い。何らかの形で付記するとか、暫定的なものとしても何か記載が必要ではないか。

会長：計画そのものに加え、今後計画を推進していく上でもコロナの影響は避けられないだろうということを含めたご意見。計画に盛り込むかどうか別としても、どのように考えておられるか。

事務局（市）：重要な視点と認識しており、昨年策定の介護保険計画では記載している。具体的にどう取り組むかは個別の計画に盛り込むとしても、例えばDXについては市の役割として付記してあるので、感染症についても、全体的なことについて何らかの形で入れられるかどうか内部で検討したい。今回、計画に盛り込めない場合は、個別計画に記載してあり、取り組むことで了承をいただきたい。

委員：資料1の体系図、推進施策9の(2)の具体的取組として「地域活動への参加の促進」を挙げている。今の学校現場では、校長が変わるたびに教育方針が変わる。地域に出て活動するという方針があっても、校長が変わってしまうとまったくその話をしない。子どもたちは迷うし、地域に子どもが出てこなくなる。福祉分野だけで推進できるものではないが、教育委員会も計画策定に参画しているのか。協力体制が出来ているのか。

会長：学校との連携ということになると思うがどうか。

事務局（市）：計画策定にあたって、十分な形で学校・教育委員会と協議が進んでいる状態ではない。ただ、今後の進め方としては、来年度新たにスクール・コミュニティ推進室という部署が教育委員会に置かれ、学校と地域社会の協働活動を推進していくということなので、その部署と協力しながら進めていきたい。

委員：パブリックコメントを募集しているが、意見があまりにも専門的すぎる。この懇話会にしても、各界の代表ばかりで専門家会議のようになっている。広く地域住民から意見を集める体制になっていない。小さな意見が上がってきていない。

会長：パブリックコメント以外にも、計画策定のプロセスの中でどうやって地域住民の声を拾っていくかということで、今回はコロナ禍で難しい部分もあったと思うが、今後に向けてどうお考えか。

事務局（市）：小さな意見、草の根的な意見を拾い上げられているかという点については、パブリックコメントという手法自体、なかなかハードルが高いというところもある。どのような形で、どの段階で意見を聞くかということを考える必要があるが、まずは今後この計画を地域に丁寧に説明しながら、その場でもご意見をいただいて、評価なり修正なりしていきたい。地域懇談会については、コロナ禍でもぜひ実施したいということから、計画策定を1年延期して全地域で取り組んできたところであり、すべての方の意見を反映できたとは思わないが、まずは地域のご意見は伺ったという認識でいる。

委員：除雪といった生活課題に対して、DXを活用しながら関係部署が連携して取り組んでいくという説明があったが、実際地域に入っていく中で、地域の現状と市の施策の方向性との間に違和感がある。地域でも12月や1月には、ある程度次年度に向けた取り組みがはじまっていくが、市の事業の変更点は3月にならないとわからないという現状である。地域住民と足並みをそろえて、市の方向性に沿って地域が次年度の活動を考えるという連携ができるようにならないか。

事務局（市）：行政としては、予算が伴わない段階では外部の方に公表することはできないため、3月議会での議決を待つことになる。行政の内部的には、秋口には次年度予算を担当課で作っている。その時期にご意見をいただいたものを、各課で吸い上げて反映していくということは考えられるので、それを意識しながら進めていきたい。

市全体の大きい課題が様々出てきているが、各課が個々に取り組んでいく時代ではない。昨年からの大雪もあり、除雪に関しては全庁的な課題と認識している。今年の冬までには

様々なことを決めていかななくてはならないと考えているので、その際にはご意見をいただきたいと考えている。

#### (5) 意見交換

委員：地域福祉計画に再犯防止計画が盛り込まれたことに感謝する。これにより山形市と酒田市で、令和4年度から計画が施行されることになる。酒田市は、保護司の関わる事案数が県内では山形市に次いで2番目に多いということもあり、さきがけての計画策定を目指してきたところである。これを契機として関係団体が連携し、安心して生活できるまちとなることを願っている。また行政、社会福祉協議会が窓口として支援の役割を担うことを期待する。

委員：災害に弱い地区に住んでいるが、毎年1回は避難騒ぎが起こっている。近年は災害の形が支援の在り方も含めて複雑化しており、対応に苦慮している。要支援者、避難困難者の名簿は既にあり、個人情報への壁もあるが少しずつ前進してきている。国では、災害時の個別避難計画の策定を努力義務としており、自分の地区でも災害時における要支援者個別避難計画を作ろうと考えている。そのためには関係団体が協力し、同じテーブルについて話合う必要があるが、一堂に会する機会が無い。その段取りを組みたいと思っているのでその時には足を運んでいただきたい。

委員：計画の周知について、人が数多く集まるのがなかなか難しい時世となっている。地区自治連では定例で集まる機会があるので、そういったときに計画を説明いただければと思う。

3年に1回の民生委員の改選時期が近づいている。担い手不足の中、人材確保が大変である。人材確保の手法や、民生委員はどういう仕事をしているのかなど教えてほしい。

委員：民生委員の仕事や、どういった方がなれるかなどは、まとめた書面があり、学区長へはお渡ししている。最近では70歳くらいまで現役の方もいる。現在酒田市では定員に対して20名が欠員となっている。欠員のところは同じ民協でやりくりしてもらっているがどうしても手が薄くなる。意向調査の際に、もう一期お願いできないかと打診すると、退任を思いとどまってくれる例もあるのでお願いしてもらいたい。地域性もあるので、一概にこうした方が良いということはないと思う。

事務局（市）：地域それぞれで選出の在り方なども違っている実情もあり、難しいようであれば、福祉課にもご相談いただきながら決めていければと思う。今年の改選についてもぜひご協力をお願いしたい。

委員：ボランティア連絡協議会は設立時34団体あったが、今現在12団体で、高齢化等で減少している。社会福祉協議会ではボランティア活動に関して出前講座を実施している。小学校高学年、中学生への出前講座を実施してもらい、若いボランティアメンバーが増えていけばと思う。

事務局（社協）：どの分野でも担い手不足であり、ボランティアも例外ではない。社会福祉協議会では若者向けに出前講座を実施したり、相談を受けたりしている。子どもたちにボランティア教育をしていくことが重要であり、計画にも盛り込まれているので、実現に向けて活動していきたい。

委員：市、社協双方とも、計画策定にあたっての段階をきちんと踏んでいる。ただ、パブリックコメントには馴染みが無く、意見が何件くらいあるのが平均なのかわからない。

事務局（市）：意見を提出するのはなかなかハードルが高いというのが実情のようで、ゼロということもあり、多くても10名未満と聞いている。今回は3名ということで、一定程度意見をいただけたと思う。ただ、回答も含めて専門的な内容で、一般の方には伝わりにくかったかもしれない。

会長：計画の説明をしていく中でも双方向で意見交換していくという説明も先ほどあったので、そういった点もお願いしたいと思う。

委員：旧八幡町の升田地域は、大雪で大変だった。意見を出したくても出せない高齢者が多い。除雪、雪下ろしなどで、高齢になると住みたいけれども住み続けられない状況。どこの地域に住んでいようとも、酒田市民誰もが安全で安心して生活していける地域にしていきたい。これから計画を地域に説明していくということだが、地域住民の意見要望を取り上げてもらいたい。

会長：意見を言語化するのも難しい。アウトリーチ型の支援という話が先ほどもあったが、こちらから出向いてお話を聞くということができると良いと感じる。

委員：成年後見制度利用促進計画の中で、市民後見人の育成を挙げている。しかし市民後見人という形で推進していくのはかなり難しい。来年度には、社会福祉法人同士の連携の制度もできるという。社会福祉法人を後見人の事業所として指定して、成年後見支援センターとしての社会福祉協議会が取りまとめする形だと良いのではないか。

事務局（市）：2回目の懇話会でも、委員からは市民後見人育成の難しさ、社会福祉法人からの協力などのご意見いただいていた。まずは、今後推進していく中で、取り組めるところを取り組んでいきたいと考えている。社会福祉法人連携については、酒田市ではまだそこまで話になっていないが、今後、国の方針も見ながら検討していきたい。

委員：策定後、計画の内容を内実化していくためには、現場、地域での状況はどうかということ把握していく、そしてそのことについての意見を聞いていくということが大事。福祉サイドからのアプローチと、地域住民の働きかけがミックスされたところが、いわゆる「プラットフォーム」ということになるのではないか。それは、地域住民や、社会福祉協議会、民生委員、自治会長そして行政といった、今この懇話会に集まったような社会福祉の関係者が、自分たちの思いを出し合うことで、具体的な活動として生まれていく。簡単なことではないと思うが、先ほどアウトリーチという話もあったが、こちらから出向っていくことが大事だと思っているので、それを意識して、つなぐ、つなげる役割を果たしていきたい。